

経営比較分析表（令和5年度決算）

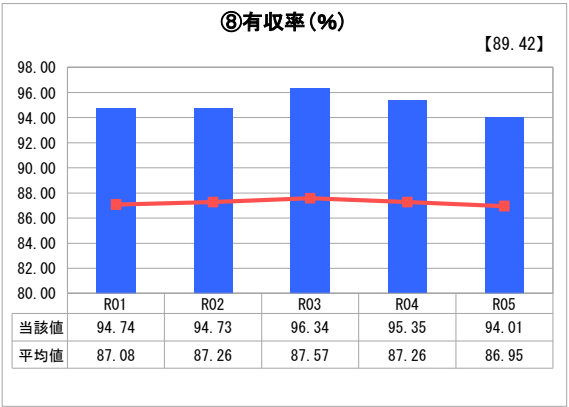
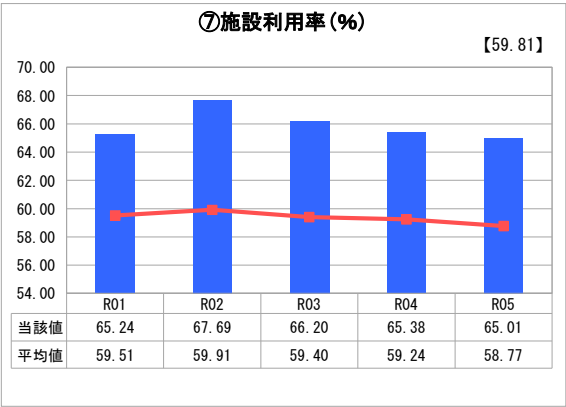
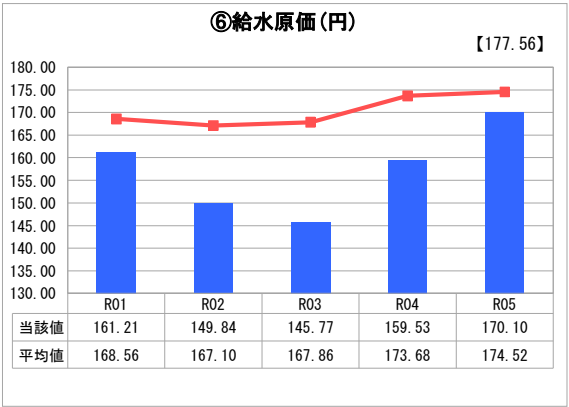
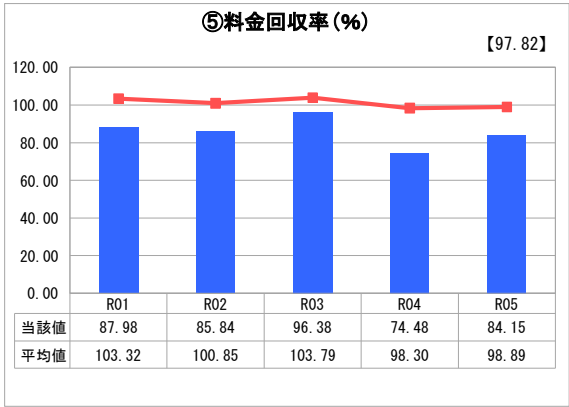
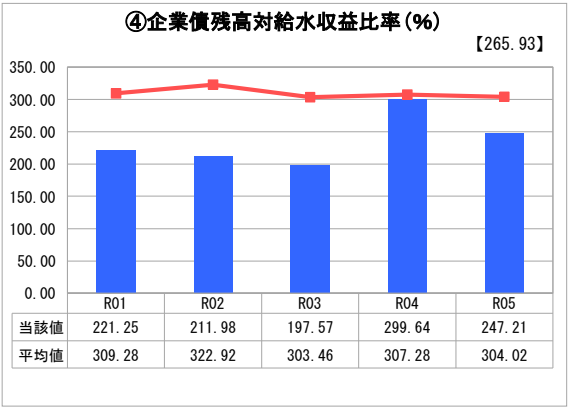
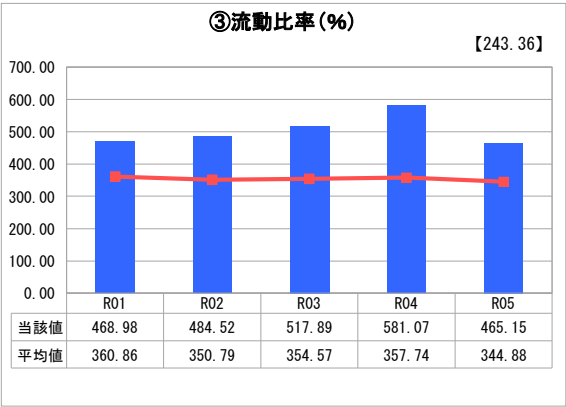
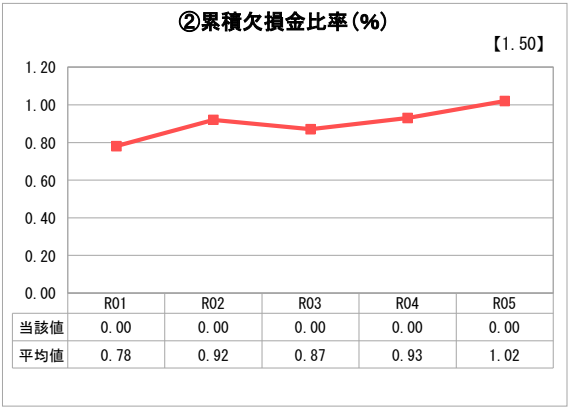
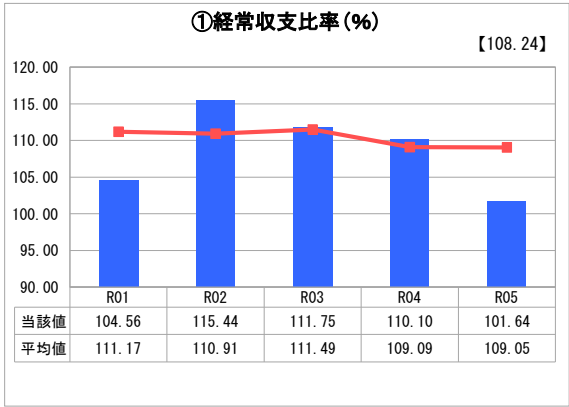
埼玉県 志木市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.27	100.00	2,288	

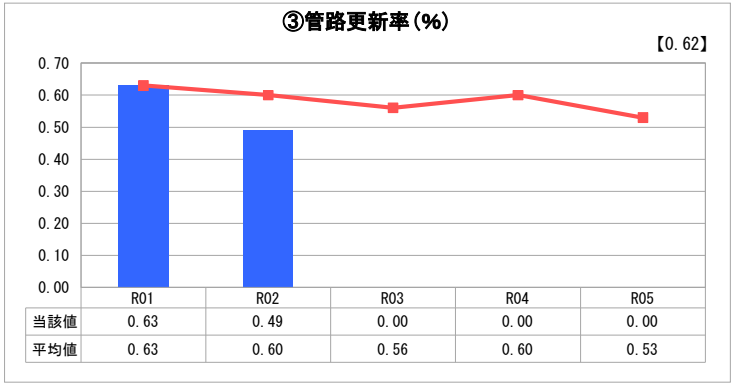
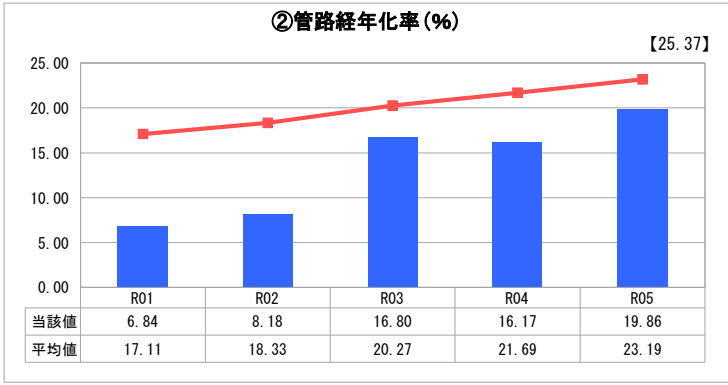
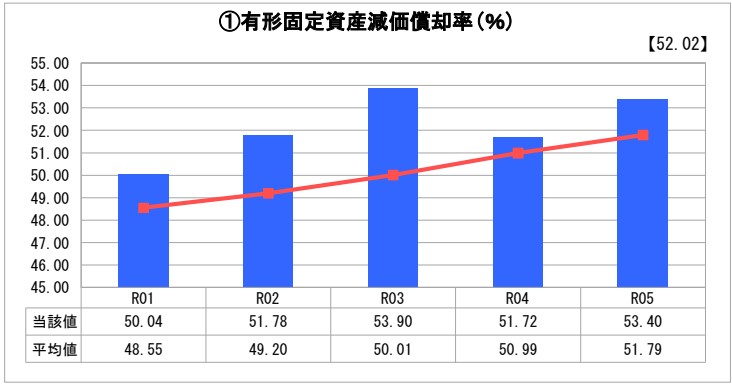
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
76,312	9.05	8,432.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
76,555	9.05	8,459.12

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和5年度は、加入金が減少し、一方、令和3～4年度で実施した浄水場等設備更新の影響により、減価償却費の上昇などにより、比率は低下しています。
将来的な大規模開発等の予定は無く、加入金の大幅な増加は見込めないことから、今後も厳しい状況が続くことが見込まれます。
②累積欠損比率
累積欠損金は発生していませんが、今後は加入金及び給水人口の減等による給水収益の減少、減価償却費の増加が見込まれるため、欠損金の発生に留意していきます。
③流動比率
類似団体平均値を上回っている状況であり、企業債の活用等により、計画的な事業運営に努めていきます。
④企業債残高対給水収益比率
浄水場等設備更新に伴う企業債残高の増加、令和4年度に実施した基本料金減免の影響により、一時的に類似団体平均値と同程度となりましたが、令和5年度は減少しました。しかし、今後も計画的な更新工事等の財源として企業債を活用していく予定であり、数値は上昇していくものと見込まれます。
⑤料金回収率
類似団体平均値を下回っており、給水収益以外の収入（加入金等）に依存している状況です。
⑥給水原価
類似団体平均値を下回っていますが、減価償却費の上昇により数値が大きく上昇しております。
⑦施設利用率
類似団体平均値を上回っている状況で施設の利用状況は効率よく稼働していることを示しています。
⑧有収率
類似団体平均値を上回っている状況で推移していることから、管路の漏水調査や維持管理を効果的に実施出来ていると考えられます。有効に収益へつなげるため、今後も計画的な管路の漏水調査や維持管理に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
令和3年度まで上昇傾向にあったものの、令和3～4年度に実施した浄水場等設備更新により一時改善しました。しかし、令和5年度には再度上昇しており、資産の老朽化が顕著となっています。施設の計画的な更新により、数値の改善に努めていきます。
②管路経年化率
類似団体平均値を下回っている状況であり、前年度より上昇しています。昭和50年代に管路布設工事を多く行っており、今後、管路の経年化が更に進んでいく状況が見込まれます。引き続き計画的な更新を実施し、更新の平準化に努めていきます。
③管路更新率
類似団体平均値を下回っており、令和5年度は前年度同様0%となっています。基幹管路・配水支管の更新について計画的に進めていくことで、管路更新率の向上に努めていきます。

全体総括

志木市水道事業の現状としては、経営的には黒字ですが、料金回収率の数値が示すとおり、給水収益以外の収益（加入金等）に依存している状況は変わっていません。また、浄水場や管路等の更新に伴い、企業債残高の増加及び減価償却費の増加が見込まれ、今後も厳しい経営状況が続くと予想されます。経営戦略等を見直し、適正な水道料金設定の見直し時期等について調査・検討を行う予定です。